

令和5事業年度事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日)

1. 事業活動

(1) 公益目的事業

本事業については、研究開発助成等として15件26,412千円(表Ⅰ)、海外に対する普及協力及び国際交流等助成として5件4,620千円(表Ⅱ)、放送大学の学生に対する助成として17,000千円(表Ⅲ)、合計で前年度比1,066千円増の48,032千円の助成を実施した。
また、令和4年度事業のうち、進捗の遅れ、及び調査対象の拡大を図るため、事業実施期間の延長を行った事業が表Ⅳとなっている。

(単位:千円)

助成項目	令和5年度	令和4年度	対前年度比
研究開発助成等(表Ⅰ)	26,412	22,329	4,083
海外に対する普及協力及び国際交流等助成(表Ⅱ)	4,620	7,637	△ 3,017
放送大学の学生に対する助成(表Ⅲ)	17,000	17,000	0
合計	48,032	46,966	1,066

表Ⅰ 研究開発助成等

1. 放送大学学園への助成金

事業名	申請代表者	所属大学・職名
(1) 機関特別推進研究事業 高等学校との連携協力推進事業	近藤 智嗣	放送大学 副学長
(2) 学習教育戦略研究所における研究等事業 学習教育戦略研究所におけるAIトランスフォーメーション研究の推進 Ⅰ. AI トランスフォーメーション研究会 ① AI トランスフォーメーション研究会の実施 Ⅱ. 各分野における調査・研究開発 【学習サポート】 ② 学生サポートとしてのAIChatボットの試行的導入と印象評価 ③ 履修科目リコメンデーション機能の開発 ④ デジタルラーニングスペースの構築とモニターによる実施計画 【教材制作】 ⑤ AI生成映像と手作業制作映像の時間・費用対効果と印象調査 ⑥ AI活用による学習の事例調査と試行実践 【評価】 ⑦ Web単位認定試験へのAI活用の調査 【業務改善】 ⑧ AI活用による業務改善の事例調査と試行実践	近藤 智嗣	放送大学 副学長・学習教育戦略研究所長

2. 大学等の教育研究職員への助成金

事業名	申請代表者	所属大学・職名
心理学実験実習に係るオンライン教材の研究開発	森 津太子	放送大学 教授
保健・看護系大学院生のための統計学習ウェブサイトの開発 ー多変量解析法を中心にー	戸ヶ里 泰典	放送大学 教授
オンライン教材【声トレ道場】の作成と配信② 音声学、呼吸、身体ストレッチ 基礎から取り組む歌唱トレーニング	渡邊 史	滋賀大学 准教授
昼間の授業でも活用可能なインターネット望遠鏡システムの開発と試行授業	土橋 一仁	東京学芸大学 教授
大学通信・遠隔教育における学修支援専門職養成ガイドブックの開発：FD・SDの観点から	山鹿 貴史	八洲学園大学 准教授
人型ピクトグラムをコンセプトとしたWebテクノロジーと情報科学分野の学習支援に関する研究	伊藤 一成	青山学院大学 教授
看護系社会人大学院生のキャリアアップ志向を育む大学間交流を活用したオンライン教材の研究開発	松本 啓子	香川大学 教授
避難所での看護実践能力向上を目的とした映像技術による災害看護教育システムの開発	酒井 彰久	福井大学 助教
乳房疾患画像読影教育のための e-Learning システム構築	長谷川 まどか	宇都宮大学 教授
防災士向け応用教育のための教材開発及び教育プログラムの試行	石井 大一郎	宇都宮大学 准教授
統計分析ソフトRを用いたデータサイエンス教材の制作とその教授方法の開発	西 誠	金沢工業大学 教授
VR技術を活用した道徳科学習環境に関する研究：VRスクールおよびVR道徳教材の開発及び効果検証	藤澤 文	鎌倉女子大学 准教授
全デジタル制御によるオンライン遠隔操作学生実験教材の開発	原田 健一	東京工業大学 特任講師

表Ⅱ 海外に対する普及協力及び国際交流等助成

事業名	申請代表者	所属大学・職名
「韓国における看護教育シミュレーション教育」Zoom講演会開催	山本 美輪	香川大学 教授
インターネットを利用した法学教育の現状と課題に関する国際的調査研究	指宿 信	成城大学 教授
ポートランド州立大学との社会人継続教育の連携・協働に関する協力事業：フィージビリティ・スタディ	岩崎 久美子	放送大学 教授
ハイブリッド型海外フィールドワーク・イン・ウガンダ：SDG12「責任ある消費と生産」の具体的理解を目指して	三上 了	愛媛大学 准教授
Metaverseで世界をつなぐHyFlex国際共修の拡大と普及	林 雅子	東北大学 教授

表Ⅲ 放送大学の学生に対する助成

① 学生生活活動支援事業
サークル情報誌の印刷経費、通信費（切手、ハガキ購入等）、学習教材等の購入に係る費用の補助。
② 放送大学が放送大学同窓会連合会と連携して行う事業
入学・卒業時支援：体験談話等講話、学生相談会、学位記授与式、卒業・終了祝賀会、オープンキャンパス等での入学・学習相談会等。
在学生支援：学生生活相談・学習相談会、就職相談活動、学生サークル・学園祭等。
生涯学習支援：学習センターと連携して行う公開講演会等。
③ 【新規事業】 学生厚生イベント・障がい学生支援
令和3年度から行っていた学習センターに在席する肢体不自由等の学生向け備品等配備事業と、新型コロナウイルス感染症のため、令和2年度から令和4年度まで助成を0円としていた学生研修旅行等一部助成事業を見直し、学生研修旅行のほか、学園祭（DX技術の進展により可能となったオンライン・バーチャル学園祭（肢体不自由者等も参加可能）等の学生の厚生イベント等に対し支援する事業を実施。
④ 学生支援給付金事業
令和2年度において、新型コロナウイルス感染症拡大や自然災害の影響により経済的打撃を受けたものに対する生涯学習の機会の確保に寄与するため、当財団からの助成金11,823千円と放送大学学園から9,977千円の合わせて総額21,800千円を原資として「放送大学学生支援給付基金」を創設、令和3年度～5年度に支給を実施
・令和3年度は、令和4年3月に支援対象者100名に9,184千円を支給。
・令和4年度は、令和5年3月に支援対象者51名に4,849千円を支給。
・令和5年度は、令和5年9月に支援対象者7名に610.5千円を支給。

表Ⅳ 研究開発助成等 事業計画延長分【令和4年度助成(令和3年度助成分含む)】

2021年度から2023年度に実施期間が延長された事業

事業名	申請代表者	所属大学・職名
(1) 機関特別推進研究等 数理・データサイエンス・AI講座の充実及び普及に向けた調査事業	近藤 智嗣	放送大学 副学長

2022年度から2023年度に実施期間が延長された事業

(1) 機関特別推進研究等 日中韓セミナーの開催		
(2) 学習教育戦略研究所 ①放送大学におけるライブWeb授業拡充のための調査研究 ⑤放送大学におけるデータサイエンス教育に対するリメディアル教育の必要性や課題に関する調査 ⑦デジタルデバイドの解消を推進するためのBYODの実現可能性調査	近藤 智嗣	放送大学副学長・学習教育戦略研究所長

(2) 印刷教材出版事業

①印刷教材の作製

本事業については、令和6年度新刊本(53科目)263千部、既刊本252.3千部、合計515.3千部を作製した。

②印刷教材の販売

放送大学学園への納入部数は、学部322.8千部、大学院4.9千部の合計327.7千部で対前年度比176.8千部減少、市販部数は学部56.2千部、大学院4.9千部の合計61.1千部で対前年度比2.2千部減少した。この結果、合計では、対前年度比179千部の減少となった。

(単位:部)

区 分	内 訳	令和5年度	令和4年度	対前年度比
放送大学学園納入部数	学部	322,817	498,904	△ 176,087
	大学院	4,920	5,636	△ 716
	計	327,737	504,540	△ 176,803
市販部数	学部	56,196	57,491	△ 1,295
	大学院	4,876	5,791	△ 915
	計	61,072	63,282	△ 2,210
合 計		388,809	567,822	△ 179,013

(3) 放送教材複製頒布事業

本事業については、授業科目について、新刊195枚、既刊330枚の計525枚、特別講義については、既刊1枚を作製・販売した。

この結果、放送教材の作製販売数は、対前年度比275枚減少の526枚となった。

(単位:枚)

区 分	内 訳	令和5年度	令和4年度	対前年度比
放送教材	授業科目	525	795	△ 270
	特別講義	1	6	△ 5
	計	526	801	△ 275

2. 事業活動収支状況

(1) 助成事業収支(実施事業等会計)

本事業による収益は、基本財産運用益、及び投資有価証券運用益の1/2相当額並びに特定資産運用益で、対前年度比18,469千円減少の20,993千円となった。

助成事業支出は、対前年度比1,066千円増加の48,032千円となった。

事業管理費支出については、対前年度比860千円減少の47,200千円となり、この結果、助成事業収支は、対前年度比18,676千円減少の△74,240千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 助成事業収益	20,993	39,462	△ 18,469
b 助成事業支出	48,032	46,966	1,066
c 事業管理費	47,200	48,060	△ 860
収 支 a-b-c	△ 74,240	△ 55,564	△ 18,676

(2) 収益事業収支(その他会計)

①印刷教材出版事業収支

本事業による収益は、市販部数は対前年比2.2千部減少、放送大学学園への納入部数においても前年度比176.8千部の減少となり、合計で179千部の減少となったことにより対前年度比258,951千円減少の566,536千円となった。

一方、印刷教材作成費は、販売数量の減少に伴い対前年度比73,975千円減少の238,781千円、事業管理費は、対前年度比2,405千円減少の211,215千円となり、この結果収支は、対前年度比182,571千円減少の116,540千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 印刷教材出版・頒布事業収益	566,536	825,487	△ 258,951
b 印刷教材作成費	238,781	312,756	△ 73,975
c 事業管理費	211,215	213,620	△ 2,405
収 支 a-b-c	116,540	299,111	△ 182,571

②放送教材複製頒布事業収支

本事業による収益は、授業科目に係る放送教材の販売が減少したことにより、対前年度比2,495千円減少の5,840千円となった。

一方、放送教材作成費は、販売数量及び著作権費の減少に伴い、対前年度比3,909千円減少の4,410千円となった。事業管理費は、対前年度比266千円増加の9,566千円となり、この結果収支は、対前年度比1,268千円減少の△8,136千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 放送教材複製頒布収益	5,840	8,335	△ 2,495
b 放送教材作成費	4,410	8,319	△ 3,909
c 事業管理費	9,566	9,300	266
収 支 a-b-c	△ 8,136	△ 6,868	△ 1,268

③収益事業収支合計(その他会計)

以上の結果、収益事業の収支合計額は、対前年度比181,421千円減少の108,404千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 印刷教材出版事業収支	116,540	299,110	△ 182,570
b 放送教材複製頒布事業収支	△ 8,136	△ 9,285	1,149
合 計 a+b	108,404	289,825	△ 181,421

(3) 管理事業収支(法人会計)

管理事業の収益は、基本財産運用益、及び投資有価証券運用益の1/2相当額で、対前年度比18,402千円減少の17,116千円となった。事業管理費は、対前年度比501千円増加の37,763千円となり、この結果収支は、対前年度比18,903千円減少の△20,647千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 管理事業収益	17,116	35,518	△ 18,402
b 事業管理費	37,763	37,262	501
収 支 a-b	△ 20,647	△ 1,744	△ 18,903

3. 当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額

以上の結果、当期の経常増減額は、対前年度比219,000千円減少の13,516千円となった。

一方、当期一般正味財産増減額では、保有有価証券の時価評価額が13,990千円増加、法人税等6,589千円を納付した結果、対前年度比91,222千円減少の20,917千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
a 助成事業収支(実施事業等会計)	△ 74,240	△ 55,565	△ 18,675
b 収益事業収支(その他会計)	108,404	289,825	△ 181,421
c 管理事業収支(法人会計)	△ 20,647	△ 1,744	△ 18,903
d 当期経常増減額 a+b+c	13,516	232,516	△ 219,000
e 投資有価証券評価損益等	13,990	△ 43,060	57,050
f 法人税等	6,589	77,318	△ 70,729
当期一般正味財産増減額 d+e-f	20,917	112,139	△ 91,222

4. 正味財産期末残高

上記の結果、令和5年度の正味財産期末残高は、3,234,126千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比
正味財産当年度末残高	3,234,126	3,213,208	20,918

5. 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」については、該当の事項はない。

(注)

- 1 消費税は、税抜き表示。
- 2 表の計数は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計と合致しないものがある。